

Check it!

NEWS & TOPICS



Open Campus2022 「学問・分野ミュージアム」

2022年3月27日(土)に、新高校2・3年生向けのオープンキャンパスを開催しました。今回のキーワードは「分野別」。3月という事もあり、希望の進路がまだ明確ではない高校生にとって、自分の興味のある分野を見つけられるようなイベントをご用意しました。自分に合う学問・分野を診断できるコーナーや、各教員の専門分野について詳しく話を聞けるブース、在学生と交流できるイベント、学びの様子を紹介するパネル展示など、盛りだくさんな1日でした。今後は6月25日(土)、7月30日(土)・31日(日)に開催予定です。



「テンちゃんキャンプ」

2021年10月30日(土)から31日(日)にかけ、本学と包括的協定を締結している国立岩手山青少年の家自主企画事業「テンちゃんキャンプ」に、盛岡大学学生9名がボランティアとして協力してきました。盛岡、滝沢、雫石、八幡平の小学3年生から6年生の54名が参加し、「楽しかった! 盛岡大学のお兄さん、お姉さんは優しい、小学校の先生になってほしい!」という声があがりました。



入学式

2022年4月5日(火)に、岩手産業文化センター(ツガワ未来館アビオ)にて令和4年度入学式が挙行され、大学417名、短大99名、計516名の新入生を迎えました。新入生の皆さん、盛岡大学・盛岡大学短期大学部へようこそ。これからの大学生活・短大生活が、皆さんにとってよりよいものとなりますように。



盛岡大学の「今」を知るなら、公式SNSへ!

盛岡大学・盛岡大学短期大学部ではホームページのほか、LINE、Instagram、Twitter、Facebookからもさまざまな情報を発信しています。ぜひお気軽にフォローしてくださいね!

LINE



Instagram



Twitter



Facebook



キャッチコピー

「対話の先に未来を創る」

「対話」とは、
「個人内で行われる対話」＝「考えること」
「自分と違うもの対等なもの間で成立するもの」＝「個の確立」
「自然や環境との対話」＝「自らの経験を豊かにすること」
などを意味します。

ロゴマーク

MORIOKA UNIVERSITYの頭文字「M+U」をモチーフに構成しました。10本の棒は十人十色、それぞれの個性を生かす。という意味が込められています。対話が知をつなぎ、人をつなぎ、未来へつないでいきます。



盛岡大学・盛岡大学短期大学部

Mori Dialog

[モリダイアログ]

vol.3

June 2022

英語文化学科の
カリキュラムが変わりました!

特集1 特別座談会	2
特集2 附属幼稚園の開園	4
研究室紹介	6
在学生紹介 盛大ストーリー	12
卒業生メッセージ	13
部署紹介	14
NEWS & TOPICS	15



Mori Dialog
[モリダイアログ]

vol.3 June 2022

2022年6月発行

■編集・発行 盛岡大学・盛岡大学短期大学部 広報戦略室
■編集長 広報戦略室 室長 高城靖尚
■〒020-0694 岩手県滝沢市砂辺808番地
■URL <https://www.morioka-u.ac.jp/>

Mori Dialog
モリダイアログ

盛岡大学の略称「モリダイ (Moridai)」と、対話 (Dialog) をあわせた造語です。盛岡大学・同短大部のテーマでもある「対話」を通し、大学と社会、人と人をつなぐ広報誌を目指しています。

令和4年度

英語文化学科の カリキュラムが変わりました！

～学科長×学生クロストーク～

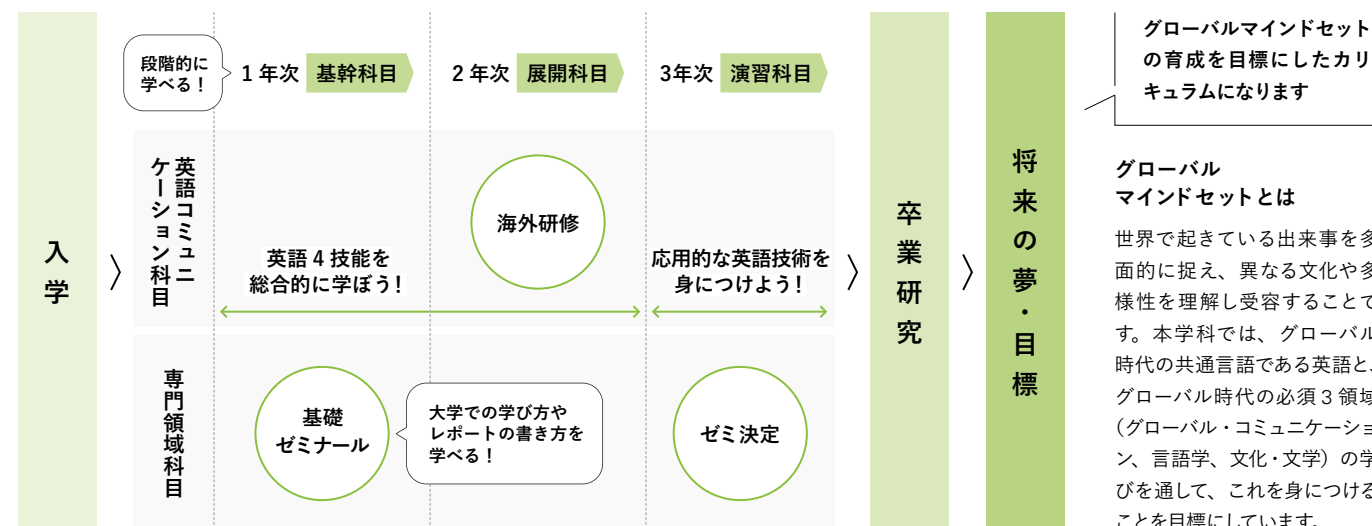
*The curriculum
has just changed!*

令和4(2022)年度入学の1年生から、文学部英語文化学科のカリキュラムが大きく変更されました。

現在旧カリキュラムで学んでいる2年生(取材当時)に、英語文化学科長の新沼史和先生がその変更点を紹介。

これからの英語文化学科が目指すもの、新カリキュラムに寄せる学生たちの期待についても話してもらいました。

●令和4年度から始まる学びのフロー



英語文化学科
中道 はるかさん
岩手県／
花巻南高等学校出身

英語文化学科
遠藤 真歩さん
岩手県／
花巻北高等学校出身

英語文化学科
三浦 成実さん
秋田県／
聖霊女子短期大学付属
高等学校出身

英語文化学科長
新沼 史和先生

座談会実施日／2022年1月11日 ※顔写真撮影を伴う発言時と集合写真撮影時を除き、常時マスクを装着して座談会を行いました。



—— まず最初に、現在2年生の皆さんがなぜ盛岡大学英語文化学科を選んだのか教えてもらえますか？

三浦 私は中学の英語の先生になりたいと思っていて、盛岡大学は多くの教員を輩出していることからこの大学を選びました。

遠藤 私はもともと英語が好きで、もっと英語を学びたいと思い英語文化学科に進学しました。高校の先生に「英語を学ぶなら盛大^{もりだい}」と勧められたことも大きかったですね。

中道 私も英語の先生を目指しているのですが、中学時代に青年海外協力隊のことを知り、海外と関わる仕事にも憧れがあります。進学前に「盛大^{もりだい}は先生と学生の距離がすごく近い」という話を聞き、先生方とたくさん交流できる大学で学びたいと思いました。

—— 2年間、英語文化学科で学んでみていかがでしたか？

中道 実際、先生との距離が近いと感じます。英語の習熟度別にクラス分けされるので、1クラスの人数が少なく、先生と1対1で話す機会も多いです。

遠藤 私たち3人はST (Special Training) クラスなんですけど、オールイングリッシュの授業も多く、英語を使う機会がとても多いです。

中道 みんなの前で自分の意見を発表するプレゼンテーションの機会も多く、度胸が鍛えられました。

—— 新しいカリキュラムの変更点が大きく3つあるそうですが、詳しく教えてください。

新沼 現在はスピーキング、ヒアリング、リーディング、ライティングの英語4技能の授業を分けて行っていますが、この4技能を1つの科目で学べるように「Active English」という授業が新設されるのが1つ目の大きな変更点です。「Fundamentals (基礎)」と「Practice (練習)」に分け、1、2年次

に週2回実施。3年生で行うより高度な演習科目へとつなげます。FundamentalsとPracticeはそれぞれ別の先生が受け持つのですが、先生同士でコミュニケーションをとりながら、それぞれの習熟度に合わせた指導をしてもらうことになります。

中道 先生同士が情報を共有し、連携プレーのように授業を組み立ててくれるのはいいなと思います。

新沼 大きな変更点の2つ目は、1年次に「基礎ゼミナール」という授業を設けます。グループワークやペアワーク、プレゼンテーションなどの機会も積極的に取り入れながら、これから4年間大学で学ぶための基礎を身につける授業です。自分で考えたり、グループやペアでその考えをブラッシュアップしたりという経験を積んでほしいですね。地域で働く方や海外経験のある方を招いての講演会なども行う予定です。

遠藤 1年次に学びの基礎を固めるための授業があるのは心強いです。グループワークなどを通して学生同士がより親しくなれそうですね。プレゼンテーションなど人前で発表するのは緊張しますが、より自主的に学びに向き合うための刺激にもなると思います。

新沼 そして3つ目が、海外研修の必修化です。事前指導、事後指導、研修後の発表までを含めて、海外研修を単位化します。

三浦 留学が必修化されるのはいいなと思います。私も高校2年生のときに2週間ほど海外留学したことがあり、それが自分にとってとても大きな経験だったので。視野が広がるきっかけにもなると思うので、それが必修化され単位がもらえるのはうらやましいなと思います。

—— 新カリキュラムを通して、どんな人材を育成したいと考えていますか？

新沼 母国語とは違う言語や文化を学ぶわけですから、大切なのは比較すること。



違いを知り、その上で互いを尊重したり共感できる人になってほしいです。多面的に思考することを学び、地域社会の問題を発見し、それを解決してよりよい社会につなげていける力、つまり「グローバルマインドセット」を育成していくことを目標としています。

遠藤 私たち現2年生は新カリキュラムを受けられず残念な部分もありますが、学生や社会の求めに応じて大学や先生方が指導の仕方を変えてくれるのは、学生としてもありがたいなと思います。

新沼 それぞれの学年でどれだけ英語力が伸びたのかを私たち教員も知りたいので、各学年の前期末と後期末に外部テストを受けてもらい、学びの進捗をチェックし今後の参考にしていきたいと思っています。こちらのテストは皆さんにも受けてもらうことになりますね。

三浦 それはうれしいです。今までは自分で受けるしかなかったのが助かります。

中道 節目節目に変化や刺激があるのはいいですね。学ぶモチベーションにもつながりそうです。

新沼 各学年で段階的にしっかり学べるよう学年ごとに必修数を定めるなど工夫しています。より丁寧に、深く、言語や文化、コミュニケーションについて学べるようなカリキュラムに進化しています。



幼保連携型認定こども園

盛岡大学附属幼稚園 が開園します

2022年4月、盛岡大学附属厨川幼稚園と松園幼稚園が統合し、
「幼保連携型認定こども園 盛岡大学附属幼稚園」が誕生します。
認定こども園への移行の経緯や目的、新たな園が目指す保育のあり方などをご紹介します。

学校法人
盛岡大学
理事長
山添勝寛



盛岡大学附属幼稚園
新園長
畠山須賀子



社会や保護者のニーズに対応

1968年、1973年にそれぞれ開園した厨川幼稚園と松園幼稚園。各園とも170名の定員でスタートしましたが、少子化による園児の減少が続き、2015年には定員を75名に変更。その一方で、共働き世帯の増加により3歳未満児の保育を希望する声が増え、厨川幼稚園では2020年より2歳児の一時預かり保育事業を開始していました。

園舎の老朽化に伴う建て替えの必要に加え、仕事を持つ親御さんや0歳児からの預かりを望む地域や保護者のニーズに対応するため、また今後の少子化社会において園児数を確保するため、学校法人盛岡大学では厨川幼稚園と松園幼稚園を統合し、2022年4月、新たに幼保連携型認定こども園である盛岡大学附属幼稚園を開園することとしました。

0歳児からの預かりが可能に

認定こども園とは、教育と保育を一体的に行う、幼稚園と保育園両方の良さを併せ持つ施設。保護者の就労状況が変化しても利用が継続できるなどのメリットがあるほか、0歳児からの預かりも可能となります。

新しい園舎が建つのは厨川幼稚園跡地。新園舎建築に伴い、厨川幼稚園の園児たちは約1年にわたり松園幼稚園を利用してきました。

新たに完成した盛岡大学附属幼稚園の園舎は、オール木造でぬくもりあふれる雰囲気。県内最大規模の敷地面積を誇り、保育室も広々とした造りです。天井の高さや照明、空調など、こまかな部分まで子どもの視点に立ち、設計されています。加えて給食は自園調理で出来立てを提供。温かい食事

がいただけるだけでなく、調理中の香りや物音も感じられ、料理をしてくださる方への感謝の心を育むなど食育も期待されています。

園児一人ひとりを大切にする 保育を実践

園舎が新しくなって認定こども園に移行しても、厨川幼稚園、松園幼稚園の両園が取り組んできた教育の根本が変わることはありません。

これまで通り、子どもたち一人ひとりに向き合い、その人格を尊重しながら保育を行っていきます。また子どもだけでなく保護者の皆さまにも寄り添い、ときに励まし合い支え合いながら、子育てのすばらしさを分かち合っていきたいと考えています。

教育の根本にあるのは、盛岡大学の創立

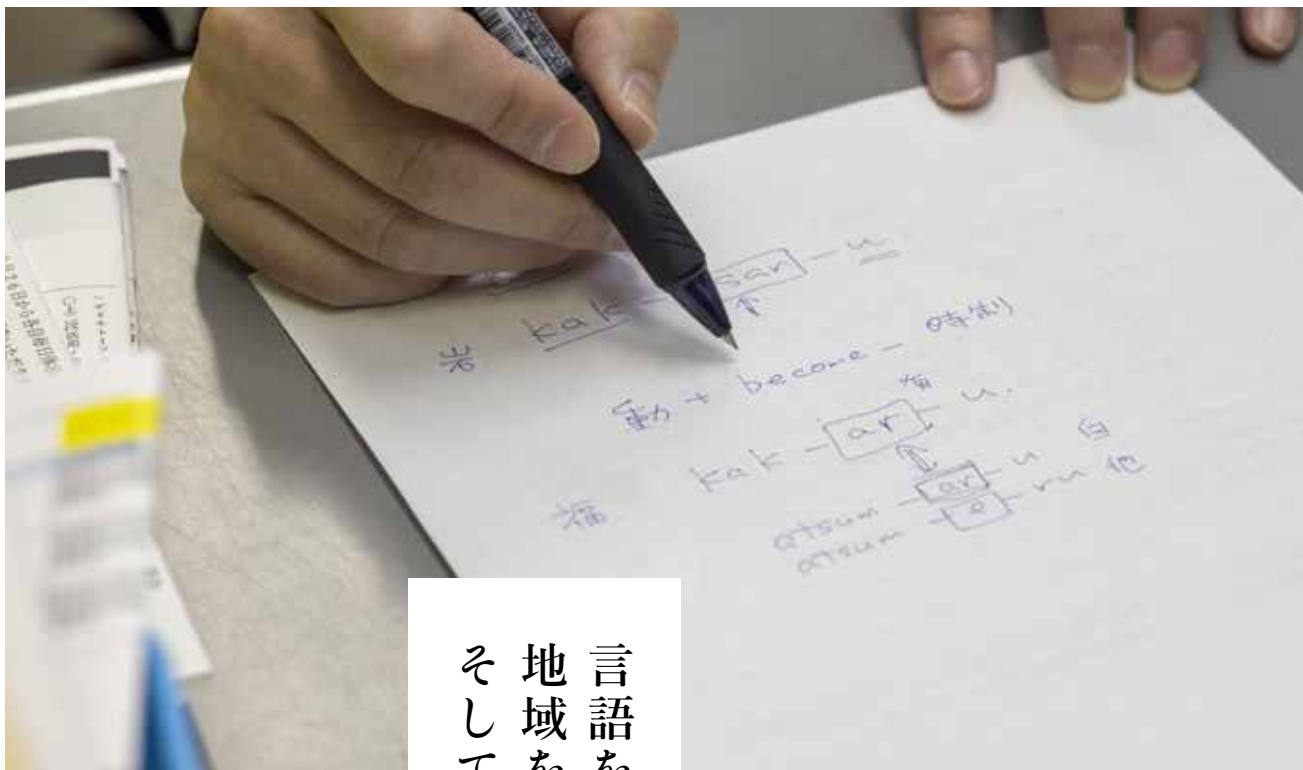
者・細川泰子先生が唱えたキリスト教の精神「愛と奉仕」の心。子どもたちのありのままを大切にしながら、保護者に信頼され、地域に愛される幼稚園であり続けたいと畠山園長は話します。

さらに大学附属の幼稚園として、より一層、大学、短大、高校との連携を強化。大学や短大の学生の実習や、各種行事などでの高校生との交流も引き続き実施していきます。学生や生徒たちの経験の場となるだけでなく、園児にとってもさまざまな人々と触れ合う機会に、そして幼稚園の先生方にとっても多くの「気づき」を与えてくれるはず。また教育研究の実践の場として、大学の先生方とも連携しながら、より充実した保育を行っていく予定です。

【基本DATA】

名称：幼保連携型認定こども園 盛岡大学附属幼稚園
住所：盛岡市厨川5丁目4-1
TEL：019-641-2557
E-mail：m.kodomo@morioka-u.ac.jp





言語を入り口に、
地域を、文化を、歴史を、
そして人を知る

故郷の言葉「ケセン語」を研究

専門領域は言語学、なかでも文や語の構造や仕組みについて研究しています。これまで、格の交替現象や敬語について研究を行ってきました。

盛岡大学に赴任する前にいた高知県で、地域特有の言葉のおもしろさに気づき、方言（土佐弁）が研究対象に。岩手に戻ってからは、自身の出身地である大船渡などで使われているケセン語についての研究を進めています。

ケセン語でよく見られる「書かさない」などの「さる表現」も、長年取り組んでいる表現のひとつ。調べていくと韓国語や福島県の方言にも似たような表現があり、比較することでその成り立ちの一端が徐々に見えてきたところです。

ケセン語を研究対象にしたきっかけの一つには、東日本大震災からの復興を後押ししたいとの思いもありました。私が研究することでケセン語を多くの人に知ってもらい、ケセン語が世界的にもすばらしい言語であることを地域の人にも知ってもらいたいと思っています。



比べることで新しいことが見えてくる

言語学の研究手法には、1つの言語の特徴を明らかにする、あるいは、2つ以上の言語を比較しその共通点・相違点を見つけ出すなど様々なアプローチがあります。私は文の構造を示した樹形図を見るのが好きなのですが、まったく接点のない場所の言語が似たような性質を持っていることもあるんです。例えばインディアン言語と日本語にも似たような特徴を見ることができます。不思議ですよ。その不思議さが言語学のおもしろさでもあります。言語学の意義の一つが「比べることで新しいことが見えてくる」こと。ケセン語も、英語や韓国語など、世界の言語と比べながら研究を進めていくつもりです。

文学部 英語文化学科
教授

にいぬま ふみかず
新沼 史和

岩手県大船渡市出身。2010年、盛岡大学栄養科学部に着任。2015年より盛岡大学文学部准教授、2018年より教授。2021年からは英語文化学科の学科長を務める。



【Episode】気仙地域を題材にした 絵本の英訳を監修

2013年には、気仙地域にまつわる英訳併記の絵本「浜の命」「ふろしきづつみ」の2冊を監修させていただきました。「ふろしきづつみ」は東日本大震災について、「浜の命」は気仙大工について書かれたものです。ケセン語と英語の

両方に通じていることを買われ、ケセン語のニュアンスが正しく英訳されているかをチェックしました。ケセン語の研究をさらに進め、ケセン語の文法に関する本を英語で書くことが目下の目標です。



文学部 日本文学科
助教

やまさき かおる
山崎 薫

2019年4月より盛岡大学文学部日本文学科助教。幼い頃から日本文学・日本史好き。歴史上の偉人のほとんどが男性なのに、紫式部や清少納言など女性が活躍した平安時代に興味を持ったことがこの道に進んだきっかけです。

「歌謡」に注目し読み解く 平安文学

文学作品に引用される 「歌謡」に注目

専門は日本中古文。平安時代に貴族の間で流行した、催馬楽（さいばら）や風俗歌（ふぞくうた）といった歌謡が、『源氏物語』などの文学作品にどのように取り入れられているのかを探究しています。

催馬楽や風俗歌はもともと、地方の歌舞を起源とするもの。一見しただけではわかりにくい謎めいた歌詞も多く、貴族文化を中心とする中古文においてはなかなか日の当たらないジャンルではあります。

しかし、貴族たちに取り込まれた歌謡は中央の文化に見逃すことのできない影響を与えています。文学作品における歌謡の受容について分析し、その重要性を明らかにすることは、地域文化の再評価にもつながると考えています。

平安に生きていた人々の暮らしと 心に思いを馳せる

平安時代の文学には、もちろんフィクションの部分もありますが、当時生きていた人間の心理や社会情勢が反映されています。1000年以上前の世の人たちが作った作品ですが、そこには現代に生きる私たちと変わらない普遍的なものもあり、その共通点を見つけ出すのも文学研究の楽しさだと感じています。

長年取り組んできた、『源氏物語』における歌謡の引用についての論考をまとめるほか、今後は中世以降の催馬楽や風俗歌の受容についても考察していきたいと考えています。

Faculty & Research



【Episode】

幼い頃から大の犬好き。 愛犬との生活を満喫中！

盛岡に暮らすことになり、東京時代には飼えなかった犬との生活を再び始めました。愛犬は3歳の柴犬、名前は「光（ひかる）」です。毎日出勤前には30分ほど散歩。犬に話しかけながら歩いています。かわいくて仕方ないですね。

中古文を見ると、平安時代の貴族は猫派が多かったようです。外で飼われていた犬が登場することは少ないのですが、清少納言の『枕草子』に宮中で飼われている犬の話が出てきます。





独自の視点で 幕末から明治の日本史を 研究

明治維新は本当に 日本の転換点だったのか？

幕末から明治にかけての日本史を、“明治維新を重要視せず”外交政策の連続性に着目し研究しています。一般的に今の日本のスタートだといわれている明治維新ですが、実は国家体制も政治体制も、社会のしくみもそれほど大きくは変化していません。むしろ大きな変化をもたらしたのは1945年の憲法改正です。

ではなぜ、明治維新が時代の転換点としてこれほど大きく取り上げられるのでしょうか。それは、歴史が政治に利用されやすいことを示しているのだと思います。ある固定の価値観で歴史を区切るのには、国に都合のいい歴史を覚えなさいということです。

「当たり前のことを疑ってかかれ」。これは私の師匠の言葉です。学生たちにも、与えられたものをそのまま受け取るのではなく、自分で調べ、考える習慣を身につけてほしいと思っています。



歴史学は、未来を見る学問

ある事件が起きるところには必ず原因があり、その事件が次の事件の原因になります。その連続性を考えていけば、次に起きることも予測できます。現在の問題を解決するために過去を見て、次に何が起きるかを考えるのが歴史学。歴史学は過去を振り返るだけでなく「未来を見る学問」なのです。

現在のまま、ある価値観を押し付けるような教育が行われていったらどうなるのだろうと危惧しています。正しく歴史を理解し、それを社会に発信していくためにも、歴史学は今後さらに大切にされるべき学問分野だと思っています。

文学部 社会文化学科
教授

かみしら いし みのる
上白石 実

2014年、盛岡大学に着任。休暇には、新たな発見を求めて全国各地の公文書館などを巡る。2021年、「十九世紀日本の対外関係-開国という幻想の克服」(吉川弘文館)を上梓。



Episode 水害にあった 貴重な古文書をレスキュー

2016年、台風10号の大雨による水害が岩手県岩泉町を襲いました。町が保管していた古文書などの公文書も被災。貴重な古文書が泥水に浸かりました。そこで私は、岩手大学や岩手県立大学の先生方と共に「古文書レス

キュー」に参加。汚れた古文書を1枚1枚水洗いして、広げて乾かし綴じ直し…。墨で和紙に書かれた文字は水にぬれてもまったくにじまないです。2日間にわたる活動で多くの古文書を救うことができました。



文学部 児童教育学科
准教授

ふじた すみと
藤田 清澄

盛岡大学短期大学部幼児教育科を卒業後、盛岡大学文学部児童教育学科に編入。その後大学院に進み研究者の道へ。2014年、盛岡大学文学部児童教育学科に着任。

子どもと保育者の両面から 乳幼児教育の現場を研究

フィールドワークで得られた知見を 教育現場に還元

当初は幼稚園教諭を目指していましたが、短大、4年制大学で学ぶうちに幼児教育のおもしろさに気づき、さらにこの学問を突き詰めていきたいと大学院に進学。研究者の道を歩み始めました。

現在は、「子ども理解」と「保育者理解」の2つの柱で研究を進めています。

子ども理解については、実際に保育の現場に行き子どもたちを観察し、その行為や動きをこまかく見ていながら、そこにどんな意味があるのかを読み解いていきます。保育者理解については、ここ数年は主に男性保育者に注目し、男性保育者の離職やワーク・ライフ・バランスについて、インタビュー調査を行いながら研究を進めています。

研究で得られた知見は論文として発表するほか、講義を通して学生たちにフィードバック。研修会等で現場の先生方とも共有しています。

認知されてきた幼児教育の重要性

近年、世界的な研究成果もあり、幼児教育に光が当たり始めています。幼児期の教育の質を高めていくことが、後の子どもの成長発達にかなり大きな影響を及ぼすことがわかってきています。それに伴い、保育の現場や保護者の皆さんにも、その重要性が徐々に認知され始めていると感じています。

今後は、環境が子どもたちの行動に与える影響についての研究を進めたいと考えています。また本学の卒業生からも協力を得ながら、4年制大学で保育者養成を受けた男子学生の卒業後の動向についても調査・研究したいと考えています。

Faculty & Research



普段の遊びの中で光の加減を楽しんでいます

Episode 父親視点？ 研究者視点？

最近の趣味はもっぱら、3歳の一人息子と遊ぶことです。おもしろいことに、わが子と接している時は「父親」の視点と「研究者」の視点が自然といい具合にスイッチするんです。生まれだての時期に抱っこをしても泣き続けたことがありました。父親視点でいると、泣き続ける姿に心

配ばかりが募ってしまうのですが、研究者視点で見ると、泣く行動を成長と受け止め、接することが出来ました。ちょっと不思議な感覚ですが、どちらの視点も自分なんだと感じます。



人間にとって欠かせない
「食べる」から考える健康

生活習慣病に関わる 血糖値について研究

私が担当する食品学は食べ物にどのような成分があり、どのような働きがあるのかなど食べ物の特性を学ぶ学問です。食品には生命を維持するための一次機能や食欲をそそり食事を楽しみ、満足感を与える二次機能、血糖値の上昇や血圧の上昇を抑えるなど健康を維持する三次機能というものがあります。

現在取り組んでいるのは血糖コントロール。血糖値を上げにくくする食品の成分や上げにくくする食べ物の組合せや食べる順序などの食べ方について調べています。

特に食べる順序によって血糖値の上がり方に変化があるかどうかを実験。先行実験でも行われていますが、たんぱく質、脂質を先に食べて炭水化物を食べる方が血糖値の上がり方が穏やかであることを確認しています。現在はより実践が可能な食べ方を検討しています。



効果を上げる鍵は体組成？

もう一つ、薬の効果をより発揮させる食品成分、食べ物についても、他大学の先生と協力し研究しています。

これまでに食品の成分によって薬の効果を高めるという先行研究があります。調べてみますと筋肉量などの体組成が大きく関わっているのではないかと思います。体組成との関連を見ながら、いずれのテーマについてもさらに調べていく予定です。

今後の研究の大きな鍵となると考えている適正な体組成を保つためには、若いうちからの習慣づけが必要です。学生にも今のうちにその重要性を認識してもらい、それぞれの進路に進んだときに大学で学んだことを生かしてほしいと感じています。

栄養科学部 栄養科学科
教授

お 太田 徹
お 太田 徹

2010年より、栄養科学部栄養科学科教授。専門は食品学。今後の研究の鍵として体組成に着目しており、自身も日々、体組成を測定。まずは自分自身が行うことで、学生にもその重要性を意識してほしいと考えています。



【 Episode 】 若いリンゴに含まれる生活習慣病予防効果

通常であれば、摘果の段階で廃棄されてしまうリンゴなどの未熟果。この若い果実に含まれる成分に、生活習慣病を予防する効果があるのではないかとわかってい

その効果を探るため、摘果したリンゴを分けてもらい、学生たちと一緒に粉末にし、パウダー状にしました。今後はこの効果については加工などを通して検証しようと考えています。

子どもの体力に影響を与える 大人の健康意識

専門領域は体育と特別支援教育です。なかでも、子どもを取り巻く大人、保育者や保護者にフォーカスを当てた研究を行っています。

保育者の身体活動に対する意識や家庭での生活習慣が、子どもの体力や生活習慣に影響を与えることは多くの研究で示されています。私もある幼稚園の協力を得て、幼児の生活習慣について保護者へのアンケート調査を実施。子どもの体力と子どもを取り巻く環境との相関を探りたいと調査を続けています。

もう一つ力を入れているのが、子どもの行動に対する大人の対応方法を身につけるプログラム「ペアレント・トレーニング」です。このプログラムを広く紹介するとともに、プログラムに取り組む前と後ではどのような変化があるのかを調査しています。

実践からはじめる 大人と子どもの温かい関係づくり

私の研究の目的は、運動やペアレント・トレーニングを通して、保護者が今より少しでも楽しく子育てができたり、気持ち良く子どもと関われるようになること。それには、子どもと大人と一緒に身体を動かしたり、大人が子どもの良さを見つけ、それを子どもに伝えていくことも温かい関係を築くポイントの1つになると感じます。

また、子どもの健康を考えるうえで最も大切なことは、まず保育者が健康であることが第一と考えています。学生たちにも、まずは自分の健康から見直すことを伝えています。今後は、保護者や保育者自身が身体を動かす機会や、子どものほめ方についても提供していきたいと考えています。

共に健やかな心と体を育む
より楽しい子育てを目指して



短期大学部
幼児教育科
准教授

しおや あやか
塩谷 彩花

県内の支援学校教員を経て、2013年に盛岡大学短期大学部に着任。学生時代はソフトボールの選手として活躍。プライベートでは5歳と6歳のママ。

Faculty &
Research



【 Episode 】 パパ、ママたちにも運動する機会を！

育児ストレスの原因の一つに運動不足も挙げられています。そんな保護者（主にママたち）のために、2021年11月、盛岡大学附属厨川幼稚園で「子育てママのリフレッシュタイム」と題し、気軽にできる運動と一緒にやる機会

を設けました。皆さん楽しんでいただけたようで、評判は上々。今後もこのような取り組みを通し、体を動かすことの楽しさを伝えることで、保護者や保育者の健康に対する意識を高めていきたいと思っています。



私と盛大Story



MY MU STORY

03

文学部 日本文学科3年

角掛 杏美

(岩手県立盛岡第四高等学校出身)

自分
なり
の
答
え
を
探
す
大
学
で
の
学
び
。
物
事
の
見
方
の
幅
を
広
げ
て
く
れ
た
詩
の
世
界
。

高校とは違う大学での学び

高校時代、文芸部に入ったことをきっかけに宮澤賢治を好きになり、賢治について専門的に研究している教授がいると聞き、盛岡大学で学びたいと思うようになりました。県内の大学で唯一の日本文学科だったのも決め手になりました。

高校時代の勉強が一つの正解を求めるものだったのに対し、大学の学びは自分で考え答えを探るものも多いです。例えば宮澤賢治の短編を読み、自分なりに考察するという授業は大変でしたがとても楽しかったです。泉鏡花は潔癖症だったため「腐」という字を使わず豆腐を「豆腐」と書いたなど、作品だけではなく作者についても深く探求することができたり、同じ学部の人たちと文学の話で盛り上がりたりできるのも、日本文学科で学んでいるからこそだと実感しています。

高校時代から始めた詩作

高校時代から詩を書き始め、いくつかの賞をいただくことができました。

詩を書いていると、自ずと普段の生活や周りの風景にも目がいき、自分と向き合う時間を持つことができます。ふと目にとまった風景や浮かんだフレーズはスマホにメモ。詩を書くことで物事に対する見方の幅が広がったような気がします。高校時代は風景を読むことが多かったですが、大学生になってからは心象にもトライしています。

詩は、どの言葉をどこに配置するかによって印象ががらりと変わります。詩作する際は私もフレーズを入れ替えたり連を組み換えたりと試行錯誤。そんなところも詩の魅力の一つです。詩を書くことは、一生の趣味としてこれからも続けていきたいと思っています。

詩



詩を書き始めたのは高校で文芸部に入ってから。最初は詩を書くのも、その後に部員同士で講評し合うのも恥ずかしかったのですが次第に慣れ、積極的に意見を交わせるようになりました。詩を書く際に心がけているのは、読んだとき、口に出したときに読みやすいこと。コンクール等に出す前には、友人などの意見も参考にしながら推敲を重ねます。昔から好きな詩人は中原中也と金子みすゞ。最近は盛岡出身の作家・くどうれいさんの作品も気になっています。



〔受賞歴〕

2018年 第33回全国高等学校文芸コンクール
詩部門 最優秀賞／韻文の部 文部科学大臣賞

2018年 平成30年度第2回岩手県はばたき賞

2019年 令和元年度岩手県高校生文芸コンクール 文芸部誌部門 最優秀賞「志高文芸53号」

2019年 第34回全国高等学校文芸コンクール
文芸部誌部門 最優秀賞・文部科学大臣賞「志高文芸53号」
詩部門 優秀賞・全国文芸専門部会長

2021年 第7回岩手県詩人クラブ 新人賞

2021年 第74回岩手芸術祭「県民文芸作品集 第52集」詩部門 奨励賞

卒業生メッセージ



盛岡大学を巣立った卒業生に、
学生時代の思い出や、後輩への
メッセージを聞きました。

料理研究家・上級食育アドバイザー 晴澤 雪枝

文学部 英米文学科

(現: 文学部 英語文化学科) 2003年度卒

「いつか」ではなく「今すぐ」に

やりたいと思ったことは

すべての経験が糧に。



「やりたいと思ったことは、『いつか』ではなく今すぐ、早いうちから動いた方がいい。すべてが今につながる糧になります」と後輩たちにメッセージをくれた晴澤さん。これまでのさまざまな経験が現在の晴澤さんを形作っています。

喧嘩できるくらいの 英語力を身につけたい！

英語が好きだったので英米文学科を受験しました。英米文学科の学生はみんな海外志向というか、卒にはまらない自由な雰囲気がありとても居心地がよかったことを覚えています。先生と英語で言い合いをしている先輩を見て、英語で喧嘩できるくらいの英語力を身につけたいと思いました。

3年の春休みにはアメリカのタコマに留学。トラブル続きで、ジェスチャーがとてもうまくなりました(笑)。何事もトライしなければ前に進めないという感覚は、英米文学科で身についたように思います。

親友と呼べる友人に出会えたのも大学です。今はそれぞれ住んでいる場所も状況も違い、会える機会も多くはありませんが、会えば一瞬で学生時代に戻ってしまいますね。

料理研究家として独立。 映画の料理監修も

もともと警察官を目指していて、大学時代も夜間に専門学校に通うなど勉強を続けていました。けれどその道には進まず、卒業後は役場の臨時職員やエステティシャン、派遣会社などに勤務。その後、クッキングスタジオで働いたことが今の仕事につながっています。

7年ほど前にフリーの料理研究家として独立。現在は料理教室の講師やレシピの考案、カフェやレストラン、ホテルなどへのメニュー提案などを行っています。昨年公開された岩手手を舞台にしたアニメ映画「岬のマヨイガ」では料理の監修もさせていただきました。エンドロールに自分の名前が流れてきたときはとても感動しましたね。

大学で学んだ英語を生かそうと、海外の方向けに英語での和食の料理教室なども開催。作り方を英語で伝える動画も制作中です。



部署紹介 教職員が連携したサポート体制により、学生一人ひとりを支援します。

3

学生部(四年大・短大)

Student Administration Department



盛岡大学・盛岡大学短期大学部学生部は、「教務課」「支援課」「短大学生課」の3つで構成されています。大学には教務課と支援課が置かれ、短期大学部にある短大学生課では、教務課と支援課の両方の業務を行っています。

教務課が担当するのは主に授業に関連する事柄で、最も大きな業務は文学部と栄養科学科のカリキュラム作りや時間割作り。学生の履修相談にも対応しています。

支援課は、奨学金に関する事柄と学生生活全般をサポート。通学やサークル活動、授業料、また学生生活についてなど、さまざまな相談が寄せられます。

このコロナ禍においては、リモート授業の調整や、教室の消毒、消毒用アルコールの補充なども担当。学生が安心して学生生活を送るためのさまざまなサポートを行っています。

学生が気軽に相談しに来てくれる部署でありたいと思っています。学生部の業務は多岐にわたりますが、最終的な目的は、学生にとって大学を居心地の良い場所にしていくことだと考えています。職員すべてが、学生の大学での学びをよりよいものにしていきたいという思いで業務にあたっています。



学生部 部長
福島 正行

短大学生課は少人数の職員で教務と支援の二つの業務を行っているため、たいへん忙しい部署です。しかし学生部でのやりとりを通して、学生には人との付き合い方や手続きの仕方を学んでほしいと考え、窓口に来る学生一人ひとりに合わせた、誠実な対応を心がけています。



学生部 副部長(短大学生課)
吉村 哲

※役職は2022年1月取材当時のものです。

Check it!

NEWS & TOPICS



もりたん劇場

2022年2月5日(土)岩手県民会館にて、もりたん劇場を開催いたしました。もりたん劇場は、短期大学部の卒業発表会として毎年2月に行われています。学生たちはコロナウイルスの感染予防対策を徹底し練習を重ね、最後まで全力で取り組みました。ダンスや昔話の劇、模擬保育の劇など、内容はさまざま。子どもたちに向けてどう表現すれば楽しくなるか、また、子どもの主体性を育むにはどのような声かけや働きかけが良いのかなど、試行錯誤しながら上演作品を創作していきました。

4月からは保育者として社会にはばたく卒業生たち。モリタンで培った力を存分に生かして活躍することでしょう。近所の保育園や幼稚園の先生は、もしかしたらモリタン卒業生かもしれません。



卒業式

昨年度はコロナの影響で規模を縮小し、学内で開催した卒業式。2021年度は、3月17日(木)に岩手産業文化センター(ツガワ未来館アビオ)にて、大学短大合同で実施いたしました。前日には大地震が発生したものの、幸運なことに滞りなく開催でき、無事に卒業生515名の門出を祝うことができました。

また、保護者の皆様にはご来場をお控えいただく形にはなりましたが、晴れ舞台をご覧いただけるよう、式の様子を録画して後日YouTubeで配信いたしました。

天候にも恵まれ、式終了後は仲の良い友人同士や教職員と、外で写真撮影をする卒業生たちの姿が見られました。ご卒業おめでとうございます。

